

ミョウガに発生したナミハダニ(黄緑型) に対する殺虫剤の効果

表1 施設ミョウガに発生したナミハダニ(黄緑型)に対する各薬剤の殺虫効果

IRAC コード	供試薬剤	希釈倍数	供試個体群(採集地、年)				
			須崎市 浦ノ内	須崎市 下分	須崎市 多ノ郷	四万十町 興津	四万十町 興津
			2018年	2019年	2020年	2018年	2020年
6	アフーム乳剤	2,000	23.7	9.6	5.7	40.5	58.3
6	コロマイト乳剤	1,000	18.4	19.8	45.7	12.1	35.4
13	コテツフロアブル	2,000	2.4	8.6	2.9	12.1	22.1
20D	マイトコーネフロアブル	1,000	10.3	0	11.4	15.7	20.0
21A	サンマイトフロアブル	1,000	5.1	0	14.3	13.0	22.9
21A	ダニトロンフロアブル	2,000	23.1	0	NT	10.3	NT
25A	スターマイトフロアブル	2,000	10.8	0	2.9	17.8	0.2
25A	ダニサラバフロアブル	1,000	15.4	0	0	0	2.6
25B	ダニコングフロアブル	2,000	NT	NT	2.9	NT	0
UN	モレスタン水和剤	3,000	0	0	NT	7.2	NT
—	対照(クミテン5,000倍加用)	—	0	0	2.8	5.7	5.4

注1) 数値は処理2日後の補正死虫率(%)を示し、数値が大きいほど殺虫効果が高いことを表す。
なお、対照の数値は死虫率(%)を示す。

2) NT: 試験を行っていないことを示す。



写真1 ナミハダニ(黄緑型)

写真2 ナミハダニを捕食する
チリカブリダニ

写真3 ミヤコカブリダニ

県内の施設ミョウガでは、ハダニ類やアザミウマ類の被害が問題となっています。その中で、ナミハダニ(黄緑型、写真1)には殺虫剤に対する感受性が低下した個体群が確認されていますが、その発生実態は明らかにされていませんでした。そこで、2018年から2020年にかけて、須崎市と四万十町の5カ所のミョウガほ場からナミハダニを採集し、ミョウガに適用登録のある殺虫剤の効果を調べました。

その結果、供試した10薬剤のうち最も補正死虫率が高かったのはアフーム乳剤で、次いでコロマイト乳剤でした(表1)。しかし、いずれの薬剤も補正死虫率が60%未満で、殺虫剤に対する感受性が低下している

ことが明らかになりました。また、いずれの個体群とも各薬剤に対する感受性が低かったことから、殺虫剤に対して感受性の低い個体群が広く分布している可能性が示唆されました。

これらのことから、施設ミョウガでは、ナミハダニ(黄緑型)を殺虫剤だけで防除することは難しいと考えられました。そのため、現在、チリカブリダニ(写真2)やミヤコカブリダニ(写真3)などの天敵を利用した総合的防除技術の確立に取り組んでいます。

本研究は、内閣府地方大学・地域産業創生交付金「“IoP (Internet of Plants)” が導く「Next 次世代型施設園芸農業」への進化」の助成を受けたものです。

(昆虫担当 下八川裕司 088-863-4915)